芸術家の創作活動を支援します

問 文化芸術課☎内線1292

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、制作・発表の機会が減少している芸術家の支援として、芸術家の活動の様子をインターネットで公開します。このインターネット公開に参加する芸術家を募集します。

■ 参加芸術家や団体の公募

自分の活動の様子を公開する芸術家と、撮影や編集など制作に関わる芸術家を募集し、その活動に応じて謝礼を支払います。

対象　市内に拠点を構え活動する芸術家

募集形態

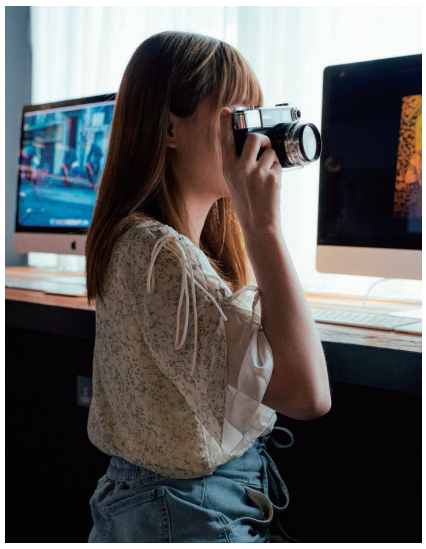
内容	件数	謝礼金（上限・税込）
映像（動画）で創作活動拠点公開	5 件程度	10 万円 / 件
写真とテキストで創作活動拠点公開	10 件程度	3 万円 / 件
映像撮影・編集	5 件程度	10 万円 / 件
写真撮影	10 件程度	3 万円 / 件
WEB デザイン	1 件程度	担当する範囲で条件を設定

申込　専用ページの応募要項を確認の上、NPO 法人取手アートプロジェクト（TAP）オフィスへ申し込み
▶専用ページ（右二次元コードから）
▶メール：tap-info@toride-ap.gr.jp
▶電話：☎ 84-1874（火・金曜日 13:00 ～ 17:00）

専用ページ

◎ TAP は、市・芸大・市民が連携し、アートのあるまちづくりを目指して活動しています。

締切　8 月 18 日（火）



平和展

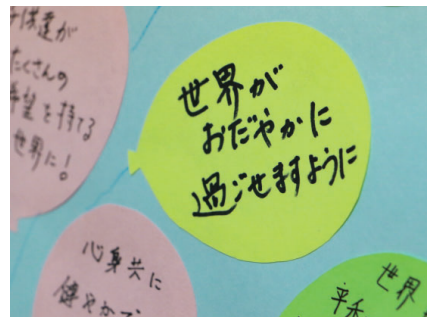
問 総務課☎内線1121

戦後世代が人口の大半を占める現在、戦争は遠い過去のものとなりつつあります。原爆の実態、戦争の悲惨さ、平和の大切さを知ってもらうため、原爆写真ポスターを展示します。

併せて、戦時下の取手の様子を伝える写真や、井野なないろ・藤代各地域子育て支援センターの利用者が制作した平和のメッセージを展示します。ぜひご覧ください。

▶藤代駅市民ギャラリー（藤代駅橋上連絡道内）
期間　7 月 29 日（水）～ 8 月 4 日（火）
▶取手駅市民ギャラリー（取手駅東西連絡地下通路内）
期間　8 月 5 日（水）～ 18 日（火）

昨年の展示の様子



平和のメッセージ

野生イノシシから豚熱を確認

問 農政課☎内線2112

6 月 27 日（土）、取手市新町地先の利根川河川敷で発見された死亡した野生イノシシから CSF（シーエスエフ）（豚熱）の感染が確認されました。

▶ CSF（豚熱）はブタやイノシシの病気であり、人に感染することはありません
▶死亡したイノシシを見つけたら…
・死亡したイノシシには触らないでください。
・発見場所などを市農政課までご連絡ください。

詳しくは農林水産省のホームページでご確認を

市長 Mayor's column コラム

平成の後半から加速した東京への人口集中

取手市長 藤井信吾

5 月 1 日時点の東京都の人口がついに 1,400 万人を突破しました。都の人口が 1,000 万人を超えたのは昭和 37 年ですが、48 年の石油ショックの頃からは人口増加のスピードは緩和し落ち着いた状態が続きました。

しかし、平成の半ば以降、「都市再生」の旗の下、土地利用規制、容積率が緩和され、臨海部での大型プロジェクトが進められるとともに不動産証券化による開発資金の調達等の支援措置が取られました。その結果、平成の後半は日本経済全体に浮揚感はないのに東京だけは建設のつち音が絶えず大きな雇用が途切れず生まれていました。東京の人口が 1,200 万人を超えたのが平成 12 年 5 月であり、それから約 20 年を経て 1,400 万人を超えました。平成 26 年末に打ち出された「地方創生総合戦略」で東京圏への人口増を抑制する方針が打ち出されたものの、東京オリンピック開催への期待もあり、実際には東京一極集中は加速し 1,400 万人超えを招きました。

私は、この 20 年の東京の人口増の意味をしっかり見据える必要があると思います。1 年あたり 10 万人の人口増を 20 年続ければ都市の生活環境に大きな負荷をかけてしまいます。都心部における交通渋滞の慢性化や深刻な保育士不足、都市景観の悪化に加え、首都直下地震などの大規模災害への備えの観点からも、過去の経験値で対処しきれない甚大なリスクを抱え込んでしまったと私は心底心配しています。

今、新型コロナウイルス感染症とのせめぎ合いの中で、人も設備も密集した都市空間が感染症対策上極めてハイリスクな場所だという認識が広がりました。東京の医療崩壊のリスクが現実の危機として語られるとともに、テレワークなどを用いた地方移住が本気で模索されるようになりました。ようやく「逆都市化」という方向への気付きが進んでいます。フランス、ドイツ、英国などで 1980 年代から一極的都市依存からの脱却、農村地域の人口増が起きていることを考えると遅ればせながら、健全な方向への転換であると思います。

私たちのまち、取手市も「都市と田園」が両立し「職・住・遊」が満たされる環境であることを、どう発信していくか、勝負時だと考えております。